

# 今、いちばん気になる統計は？

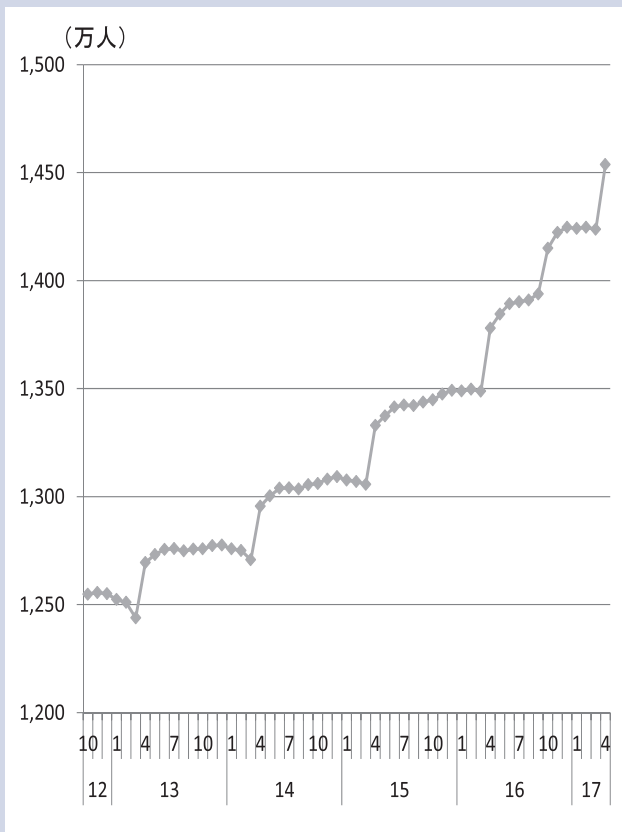
## 厚生年金被保険者数

厚生年金被保険者数(女子)は、社会保険による130万円の壁(大企業や一部の中小企業では106万円)を超えた雇用者数といえ、女性の就労への意識を見ることができる指標である。

この5年間で女性雇用者は約230万人、女性厚生年金被保険者は約200万人増加しており、社会保険の壁を乗り越え、就労を拡大する女性が確実に増えている。来年1月から実施される配偶者控除の拡大で恩恵を受けることができるのは、103万円の壁を超えて就労を拡大した配偶者であり、年間5~10万円程度になる配偶者控除適用拡大の恩恵を受ける世帯が予想外に出そうだ。

人口が減少する中、貴重な労働力である女性の労働力を十分に生かせる社会作りを進めることは、活力ある経済と安定した社会保障の実現に大きな意味を持つ。今年も来年度の保育園入園を目指す保活の時期に入ったが、保育園だけでなく、育児、介護、家事、地域活動など広い意味での両立支援を迅速に進めることが求められる。(経済調査部 柵山 順子)

資料 厚生年金被保険者数(女子)



(出所)厚生労働省「厚生年金保険・国民年金事業状況(事業月報)」

## 編集後記

2017年も残り3ヶ月。いよいよ最終コーナーを回り最後の直線に出てきたところ。はじめからサブトラックで調整中のものを除いて普通に走り出したものをみれば、これまでのところ大きく集団を引き離して先頭を走るものもいなければ終盤にきて急に失速しているものもない。スタート前は今年も記録はたいしたことないだろうと思われていたが、思いの外健闘していると言っていいのではないだろうか。

日米欧3極はどんどん加速を続けるということはないがペースダウンの兆しもなく、かといって歯を食いしばって頑張っているという感じもなくただ淡々と走っているようだ。新興国も10年前の爆発的な加速力を見せることはないが、それなりに体も大きくなり洗練された走り方も身につけ着実にレースを展開していると言ってもいいだろう。エコノミストの間で緊張感を感じられない。

何となく経済が安定していると、時の政権の支持率は高く、政治的な対立はあっても比較的穏やかで多くの人々が笑顔でいられるというイメージもある。しかし現実にはそれほど単純ではないということを思いしらされる今日この頃である。格差の問題、様々な排外主義の横行、ポリティカル・コレクトネスのあからさまな否定。マクロ経済でみると好調に見えても中を覗くとほんとうに色々な生活があり益々平均で物事を語る事が難しくなっている。

エコノミストには何が違うのかよくわからない議論をしている時間はないし、相手を何も分かってないと切り捨てるだけではエコノミストは捨てられてしまう。緊張感を解いている場合ではない。(H.S)

○第一生命経済研レポートに関するご意見・ご要望は、keizai@dlri.dai-ichi-life.co.jpまでお寄せ下さい。

○本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。